

平成 20 年 宮崎地域の巡検会

内間はる香¹⁾ 早川祐貴¹⁾ 坂下逸朗¹⁾

1, はじめに

平成 20 年 8 月 9 日, 10 日, 11 日の三日間にわたり, 表記の巡検会が行われた. 今回の巡検会の目的は主に宮崎県北部の地形・地質に関する理解を深めることである.

2, 日程・巡検地解説

8月9日

熊本大教センター前集合⇒出発⇒五ヶ瀬町高畑⇒五ヶ瀬渓谷(昼食)⇒鶴富屋敷⇒椎葉ダム⇒仏像構造線の観察⇒メガロドン化石の観察⇒民宿『焼畑』泊

◆五ヶ瀬町高畑での化石採集◆

下部白亜系高畑層(アルビアン後期)の二枚貝化石の採集を行った. ここでは *Nanonavis takahataensis* *Pterotrignia(Pterotrignia) takahataensis* *Astarte (Astarte) yatsusiroensis* *Resatrix (Vectorbis) miyazakiensis* 高畑層産二枚貝化石は, 内帯の御所浦層群や御船層群産二枚貝化石と同一種が産することなどが特徴であるとの説明があった.



写真 1 採取化石

◆鶴富屋敷◆

椎葉村伝統の様式である“並列型民家”を見学した. 平地がすくなかったため, 傾斜をうまく利用するために考えられた横長のつくりとなっていた. さらにここでは偶然, 土砂崩れの被害の様子も見る事ができた. 家の壁は破壊され, 天井まで泥が付着しており, 災害の恐ろしさを肌で感じた.

◆椎葉ダム◆

このダムは, アーチ技術を取り入れた日本最初のダムである(表紙写真). アーチ技術とは, 弓形に張り出したアーチ上の提体が, ダムにかかる水圧を兩岸の基礎岩盤に分散する構造のダムであり, 圧力に対して非常に強い. この理論は熊本城の石垣にも使われていると聞き, 驚いた.

◆仏像構造線◆

耳川上流の不土野付近で秩父帯(三宝山帯)と, 南側の四万十累層群北帯との境界をなす仏像構造線を実際に観察することができた. 石灰岩と砂岩の境界が著しく破砕している様子がわかり, 地殻変動のすさまじいエネルギーを感じた.

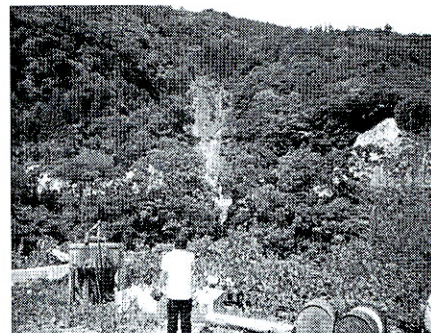


写真 2 対岸から見た仏像構造線

◆メガロドン化石◆

露頭は侵食されてきており、そこにあると知っていなければ観察することはできないような場所であった。三畳紀カーニアン
のメガロドンの化石が産出するという
ことで、この地帯が三宝山帯に位置している
ということが判った。



写真3 露頭から出たメガロドン化石

◆民宿『焼畑』◆

一日目の宿は、『おばあちゃんの植物図鑑』で有名な椎葉クニ子さんの民宿に宿泊し、山菜料理をいただきながら、物知りなおばあちゃんのお話を聞くことができた。野草のことや、食糧保存の方法など、その知識の豊富さに驚かされた。また、ここでは三畳紀ノーリアン？を示すキウシュウトリゴニアの化石が産出し、これは三宝山帯に特徴的に産出し、その当時の古地理を考えるに当たって重要な手がかりとなるとの説明があった。



写真4 民宿『焼畑』でクニ子さんと。

8月10日

出発⇒シャールスタイン観察⇒角川町『天領うどん』にて昼食、足立先生と合流⇒尾鈴山酸性岩類の観察⇒門川町唐船バエ⇒馬ヶ背での柱状節理観察⇒化石採取⇒神社での冷湧水性二枚貝化石観察、足立先生とお別れ⇒国民宿舎『石崎浜荘』泊

◆シャールスタイン（輝緑凝灰岩）◆

シャールスタインとは玄武岩質の岩で、中・古生代に海底火山での噴出物をまとめてこう呼び、塩基性火山噴出物とも呼ばれる。

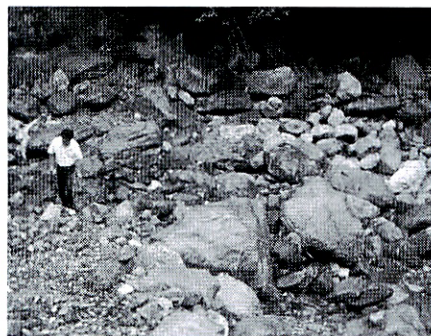


写真5 シャールスタインの様子

◆尾鈴山の酸性岩類の観察◆

足立先生に案内していただいた場所は、門川層と尾鈴山火山活動の際の火砕流の接触部である。ここでは尾鈴山の火山活動によって形成された地層を観察した。マグマのデイサイト質の白色岩片の中に、門川層



写真6 酸性岩類の様子

の頁岩、砂岩、庵川礫岩などを取り込んでおり、全体角礫でいわゆる火山角礫岩であった。

◆門川町唐船バエ◆

このあたりは海底地すべりを想起するような、複雑な構造が随所に見られた。いわゆる布団岩や、スランプ褶曲が観察でき、水平部には漣痕やサンドパイプも見られた。

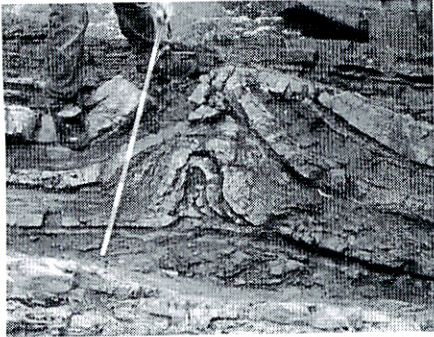


写真7 褶曲の様子

◆馬ヶ背◆

馬が背では壮大な尾鈴酸性岩に属する溶結凝灰岩の柱状節理を観察した。ちょうど雨も上がり、蒸し暑い中で観察となった。ここでは、柱状節理の断面を観察することができ、柱が五角形になっていることがわかった。

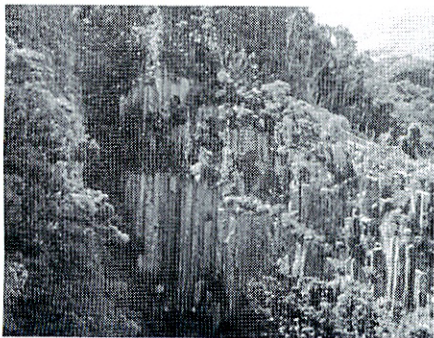


写真8 遊歩道からの眺望

◆化石採集◆

通山浜（宮崎層群）で第四紀の二枚貝化石を採取した。

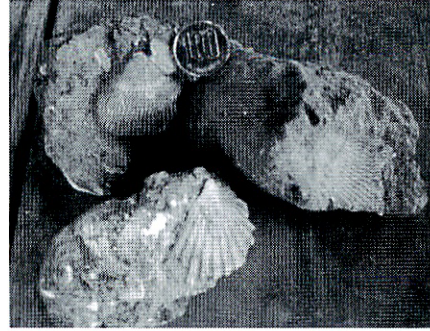


写真9 採取された化石

◆久家神社での冷湧水性二枚貝化石の観察◆

岩脇の冷湧水性化石群集は、温泉を伴わない浅い海に生息していたことが確認されている。このような例は稀であり、いまのところ九州ではここだけである。採取された化石の一部は宮崎県総合博物館に展示されていた。

岩脇の化石群集は過去の地球環境変動を研究するうえで非常に重要で、今後の研究の進展が注目される。



写真10 冷湧水性二枚貝化石群集の様子

8月11日

出発⇒宮崎県立総合博物館⇒昼食⇒青島
⇒熊大到着

◆宮崎県立総合博物館◆

入り口にあった宮崎県北部の五葉岳付近の三宝山帯から発見された巨大なメガロドン石灰岩に驚かされた後、博物館の学芸員の赤崎さん・松田さんに案内していただき

ながら館内を見学した。内部はいくつかのブースに分かれており、主に地学のブースを見学した。鉱物や化石、宮崎県の地質などについての展示があり、それらについて様々な観点から学習できるようになっていた。どの資料も興味深かったが、今回は普段は見られない、未展示の化石や鉱物なども特別に収蔵庫に案内していただいていたことができた。

資料室も充実しており、利用者のニーズにこたえるべく、書籍や動植物標本、川原の石の標本など、実に様々な資料が用意されていて、教育現場からみてもとても魅力的な環境であった。

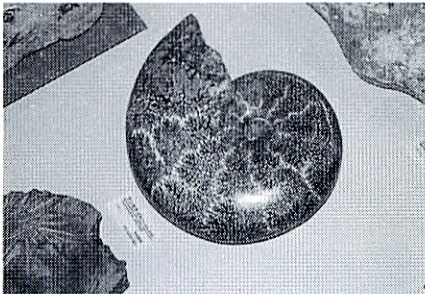


写真 11 展示されたアンモナイト



写真 12 展示されたメガロドン化石

◆青島◆

青島海岸で有名な「鬼の洗濯岩」を観察した。新第三系宮崎層群の砂岩・泥岩互層が約3キロメートルにわたって続いている様子は圧巻であった。一回の混濁流によっ

て、一組の砂岩層と泥岩層が堆積し、その繰り返しによって形成、浸食を受け、現在の様相を呈している。混濁流は百年に一回の間隔で起こり、今もそれは続いているとの説明があった。

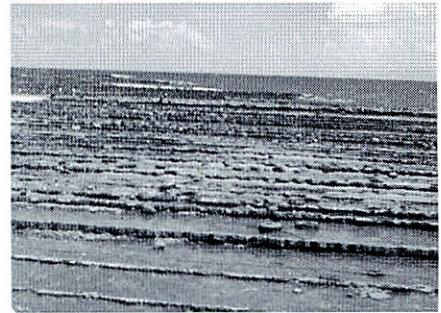


写真 13 鬼の洗濯岩

3. おわりに

最後に、三日間丁寧なご説明をされた渡辺一徳先生、田中均先生、そして足立富男先生に深く感謝の意を表し、巡検会の報告とする。

発行所

熊本地学会誌	No. 149
熊本市黒髪2丁目	熊本大学教育学部
地学研究室内	熊本地学会
TEL096-342-2539	振替 01960-2-5359